

自分の意思を表し、積極的に活動に取り組む生徒をめざして

山根純子

はじめに

V男は、本校高等部に入学するまで、地域の学校に通学していた。その中で、「自分はいろいろなことが他の多くの友だちと比べてできない」と思う場面を多く体験している。また、「ほめられたことは覚えていません」「いけないことをいろいろいわれています」とV男は言っている。このような周囲の環境の中で自信が持てないまま、本校に入学してきたと推測される。

そのために、高等部に入学した頃もいろいろな面で消極的になりやすく、次のような行動がみられた。

- ・人に促されないと、自分から行動を起こさないことが多い。
- ・初めてのことで、少しでもできそうにないと思うことに、なかなか取り組まない。
- ・人前に出ると、緊張して持っている力を発揮するのが難しい。
- ・人の顔色を見て行動する。
- ・少しでも失敗を指摘されると、とても気にして黙り込む。

このようなV男であったが、高等部での生活の中で、徐々に自分の思いを表せるようになり、積極的に活動する面が見られはじめています。

そこで、自己客観視の段階にいるV男が、自分のできないところ、失敗するところ、上手にできないところをありのままに受け入れ、少しずつ努力して、できるところを少しずつ増やし、自信を持って自分の人生を歩めるようになれば、自分の意志を表し、積極的に活動に取り組む生徒になると仮説を立て、以下のような実践を試みた。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和54年3月28日生、17歳11か月
- ・小学校6年間、中学校3年間在学後、本校高等部に入学。父、母、本人、弟2人、祖父、祖母の7人家族。

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査
WISC-R IQ40以下（平成6年5月実施）
田中ビネー MA 8歳10か月（平成7年5月実施）
- ・S-M社会生活能力検査 SA 6歳8か月（平成8年5月実施）集団参加に特に落ちこみがある。

(3) 行動特性

- ・指示されたことは、ゆっくりではあるが丁寧に取り組む。
- ・非常に消極的であるが、少しずつ自分から挙手して発表したり、自分の意思を表した

りできるようになりつつある。

- ・できないこと、わからないこと、失敗したことを素直に認めない傾向が強い。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

生活一般の中で、自己認識の学習をすることにより、V男は、「ありのままの、できないことがある自分でいいのだ」「今度はこんなことができるようになりたい」と考えるようになり、自信を持って生活するようになるのではないかと。また、いろいろな場面で活躍できる機会を作ること頑張ろうという意欲の持てる言葉かけをすることにより、めざす像に近づくと考えた。

(2) 指導の方針と手だて

- 本人の気持ちを受容することに心がけ、信頼関係を作る。
- 僅かであっても、まず、良いことや頑張っていることを心からほめる。
- 激励し、期待をかけ意欲を高める。

3 指導の実際

(1) 生活一般での実践例

① 題材名 「自分を知ろう」

② ねらい

自分についての理解を深め、自信を持って意欲的に生活しようとする態度や姿勢を育てる。

③ 指導計画（全13時間）

第一次 得意なこと、苦手なこと（6時間）

- ・自分の良いところ、得意なこと、友だちの良いところ、得意なこと
- ・苦手なこと、嫌いなこと
- ・頑張って、頑張って、頑張って、できたこと
- ・頑張って、頑張って、頑張っても、できなかったこと

第二次 障害ってどんなこと（4時間）

- ・障害ってどんなこと
- ・できなくて、恥ずかしかったこと
- ・できないことをどう思うか

第三次 自分のことを学習して（3時間）

④ 指導の実際

「自分を知ろう」を実践した中から2時間の様子を述べてみたい。

- 自分の苦手なこと、嫌いなことでも言おうとする気持ちを高めようとした実践例

学 習 活 動	支 援（具体的な手だて）	V男の様子
	・座席を円形にし、椅子だけを残し、みんなで顔を見ながら話しやすい場を設定する。	・リラックスした様子で顔を上げ

<p>1. 前時に学習した、友だち、自分の良いところ、得意なことを確認し今日の学習について知る。</p> <p>2. 教師の嫌いなこと、苦手なことを聞く。</p> <p>3. 嫌いなこと、苦手なことを発表する。</p> <p>4. まとめ、次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でV男の良いところ、得意なところを認め、他人から認められる経験を多くする。 ・教師自身のことを話し、言いやすい雰囲気を作る。 ・友だちの嫌いなこと、苦手なことを聞いたり考えたりして、誰にもあるという安心感が持てるようにする。 ・友だちや教師の意見を押しつけないようにし、「ないです」、「わかりません」も認め、心の傷を深めないようにする。 ・全員に嫌いなこと、苦手なことがあったことを確認し安心感が持てるようにする。 	<p>学習した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもにこやかでうれしそうであった。 ・リラックスした様子であった。 ・「高くて、細いところを渡るのが苦手です。31×3はできるけど31×25はできません」とはきはき答えた。 ・じっと聞いた。
---	--	---

自分の良いところや得意なところについてクラスみんなから、再び認められたので「今の自分でいいのだ」という思いが持てだしたようである。また、教師にもみんなにも嫌いなことや苦手なことがあるということがわかり、できない自分を認めようとしてきた。

○できないことがあってもよいという考えが持てるような実践例

学 習 活 動	支 援 (具体的な手だて)	V男の様子
<p>1. 前時に学習した、友だち、自分のいいところ、得意なことを確認し今日の学習について知る。</p> <p>2. できないことについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でV男の良いところ、得意なところを認め、他人から認められる経験を多くする。 ・考えやすくするために「できない人は、いい人か、いけない人か」を考え、理由も考える。 ・全員が意見を言うように順番に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもにこやかでうれしそうであった。 ・顔を上げて、友だちの意見を聞き、よく考えていた。「できない人もいい人です。わけは、できない人がいるからです」

みんなで考えて「できないひといい人だ」という結論に至ったことで、できない自分を少しでも認めようとしている。後の学習でのアンケートを見ると、この学習について、

「うれしかった。また、学習したい。ためになった」と書いていることからわかる。

(2) 児童生徒会活動における実践例

V男が後期児童生徒会長となれば、学校全体にかかわる活動をしたり、学校全体を動かす活動をしたりすることになり、活躍の場が多くなる。いろいろな場で活動し、それが達成されることは、V男にとって自信となり、いろいろなことに積極的にかかわっていかうとする意欲につながると考えた。

そこで、立候補させたいという思いがあったので、候補者選びをする前に、V男の気持ちを聞いた。答えは、「やりたいです。学校生活最後なので、みんなのために役にたつことをしたいからです」とのこと。以前の消極的なV男には考えられないことであった。また、応援演説を友だちに頼むこともでき、自信を持って立候補演説をして、当選することができた。

会長となってから、「挨拶運動をしたいので、朝一つ早いバスに乗ってきてもいいですか」と問うてきた。「いいです」と答えると、とてもうれしそうな顔で「はい」と答えていた。次の日から、早いバスで来て玄関のところで挨拶をするようになった。V男がいる時は必ず声をかけ、よくやっていることを賞賛した。玄関にいない時は本人にわけを聞き励ますようにした。月の目標が変わった現在も意欲的に頑張っている。

児童生徒集会の発表なども、はっきりした声で言っており、自分に任された仕事を精一杯しようと努力している。



会長に当選して演説をするV男

4 考察と今後の課題

自己認識の学習の中で、「できないことははずかしいことだ。自分のよくない面を隠したい」という考えから少しずつ開放されてきている様である。しかし、まだ十分開放されてはいないので、今後も、自己認識の学習を続けて行きたい。また、得意なこと、良いところ、苦手なこと、できないことがある自分の命は一回限りで、これから先どんなことを頑張るのか、どうやって生きていくのかを決めるのは自分なんだということも学習したい。

学校生活の中で、頑張っているところや良いところをほめられることにより、より頑張ろうとすることがわかった。また、どうしたらできるようになるかを一緒に考え、具体的に示し、励まし、期待することは大変重要であることもわかった。

学習発表会の構成劇「わたしたちの学校」の練習の中で、一生懸命、台詞を覚え、ゆっくり、大きな声で言えるよう頑張っていたこと、児童生徒会長としてはじめの言葉を考え、プログラムの最初に落ち着いてははっきり言えたことはこの取り組みの成果の一つと考える。

しかし、失敗をしたとき、頼まれていたことができなかったとき、しなければならないことができていないときなど、素直に認めることが難しい場面がある。今後の課題である。